

令和6年度学校自己評価システムシート（県立狭山工業高等学校）

目指す学校像	誠実で創造性に富み、ものづくりをとおしてよりよい未来を実現する技術者を育成する工業高校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 学習習慣の確立や学習指導と評価の改善を通じて、確かな学力を育成する。 保護者と連携して、規律ある高校生活を実現するとともに、生徒一人一人を大切に生徒指導を推進する。 地域への情報発信や連携を通じて、地域に根ざした学校づくりを推進する。 キャリア教育の充実やものづくりの技術・技能の向上、資格取得を推進し、生徒の進路希望を実現させる。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

学校自己評価							
年度目標					年度評価（1月9日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価3年目の年となり、昨年度の評価活動を振り返り、改善してゆく。主体的・対話的で深い学びに対応した評価活動を完成する必要がある BYADによる一人一台PCを導入して2年目となり、ICTの活用を学校全体で考え、主体的・協働的・多角的に物事を探究し、確かな学力を身につけさせる必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 評価活動の改善と評価基準の作成 教科毎のICTの積極的な活用と探究心を持った生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 指導と評価の一体化を目指し、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を意識した評価活動の実現する DX時代に対応できる力を身につけさせるため、ICTを積極的に活用するとともに生徒が互いに学び合える環境を積極的に提供する 	<ul style="list-style-type: none"> 3つの評価の観点を意識した授業展開を行い、評価活動に活かされたか 生徒アンケートの授業について「とても充実している」「充実している」と回答する生徒を増やせたか 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の3観点を意識した授業展開により、評価活動の改善に活かすことができた。 生徒アンケートから、授業が「とても充実している」「充実している」の割合が昨年度と同様に高い水準を維持している。(88%→91%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 特に座学において、BYADによる一人一台PCによる演習や課題提示や提出、評価など積極的にICTを活用し、よりわかりやすく丁寧な授業を行っている。 一人一台PCによる授業データや資料等を用いた学習の実施など、ICT機器の活用をさらに充実させたい。
2	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶・身だしなみ・清掃など、生徒の基本的な生活習慣は良好である。さらに生徒の自主性・自立性を高め、心身の成長と規範意識を向上させる必要がある 保護者アンケートによると、家庭での時間の使い方について、学習時間や会話の時間が少なく、保護者と連携し、規律ある高校生活を実現する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性・自立性を高める工夫 家庭での時間の使い方の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 狭工私服DAYの取組などの生徒の自主性・自立性を高める活動をとおして、物事を自分の力で考え行動できるようにする 規律ある高校生活を送ることで学習に対する意識を高め、家庭での学習習慣を定着させる 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの「本校での学校生活は充実している」「本校に入学して満足している」生徒を増やせたか 保護者アンケートの「家庭での学習時間が増加している」を増やせたか 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの「本校での学校生活は充実している」(87%→86%)はほぼ変わらず、「本校に入学して満足している」は増加した。(77%→86%) 保護者アンケートの「家庭での学習時間」については30分から2時間程度の学習をする生徒が増加している。(40%→46%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性・自立性を高める狭工私服DAYについては毎月2回実施し、着実に生徒達に浸透している。 家庭での学習時間の長さやスマートフォン・ゲームをする時間が長い(3時間以上が56%)など、課題がある。
3	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会との連携を強化し、社会に開かれた教育課程の実践を推進する必要がある 三学科とも新入生が定員に満たず、入試倍率が低迷している。HPやSNS、動画等を積極的に活用し、生徒募集につながる本校の魅力を発信する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会と連携した教育活動を積極的に推進する 中学生とその保護者や中学校の先生方に本校の魅力を伝え、入試倍率を上げる 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に本校の魅力をPRし、地域イベントへの参加などに取り組む HPやSNSに日々の教育活動を積極的に発信し、保護者や中学生のニーズに沿った、きめ細やかな情報提供を行う 	<ul style="list-style-type: none"> SNSの活用や地域イベントへの参加が積極的に行えたか 学校の魅力が広く伝えられ入試倍率向上につながったか 	<ul style="list-style-type: none"> 地域イベントや中学校への出前授業に積極的に参加した。特に「狭紅茶」についてはマスコミ等に取り上げられた。 中学生向けのHPの作成、ブログやInstagramの活用などにより本校の魅力を伝えることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> HP等を活用し、さらに外部に向けて様々な情報を工夫して発信する必要がある。 中学生にわかりやすく、興味関心を抱かせるよう、効果的な生徒募集行事を立案し、入学希望者の増加を目指す。
4	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な情報提供や丁寧な面接練習等により、進路決定率が高い水準にある。引き続きキャリアガイダンスを充実させ、早い段階で目的意識を持って高校生活を送らせるようにする 生徒一人一人が自己実現に向かって高校生活の目標を定め、自己を高めさせ、課題研究や実習、資格取得やコンテスト等などに積極的に取り組ませる必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 早い段階からの進路意識の高揚と目的を持った進路実現100%に向けたキャリア教育の実践 資格取得やコンテストに向けた指導と課題研究や実習等のものづくり教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に好奇心や達成感を抱かせる課題や学習内容、学習方法等を工夫し、各学年において生徒が自ら針路を定められるよう段階的な進路指導を実施する 資格取得やコンテスト等に関する情報を積極的に提供し、資格取得等に向けた特別講座等の実施や生徒の多様な活動を支援する 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの「自分の進路決定に満足している」「やや満足している」生徒を増やせたか 資格取得数やコンテスト等で活躍した生徒数が前年度より向上したか 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の進路決定に満足している」3年生は増加した。(89%→91%)一方「やりたいことがはっきりしている」「候補がいくつかある」生徒の割合はやや減少している。(60%→50%) 生徒アンケートから、「いろいろな資格や検定に挑戦している」生徒の割合は2倍以上増加した。(12%→28%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定率100%は高い水準を維持しているが、基礎学力の定着に不安がある生徒が増加しつつある。 保護者アンケートから、保護者は学力向上(42%)と合わせて資格取得(70%)を望んでいる割合が高い。進路実現を踏まえて、資格取得しやすい環境を作る。

学校関係者評価	
実施日	令和7年2月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒のPCをレポート提出に活用するなどの充実を要望する。 生徒アンケートの「勉強する理由」がR6年は「いろいろな考え方を学べるから」に推移した要因は、わかったことが勉強の楽しさにつながっているのではないか。また、BYADを活用した授業形態の変化によって生徒の意欲が向上している可能性がある。 生徒アンケートで授業の充実度が高いことは良い。 	
<ul style="list-style-type: none"> 狭工私服DAYは楽しい、良い企画と感じている。私服の方がよいと今は思っている。 服装について、制服はあった方が、学校で頑張っているという自己肯定感につながる生徒もいると思うので今のように選択できるのは良い。 	
<ul style="list-style-type: none"> 地元の秋祭りに参加してくれたことで地元の住人に周知することができ、結果が出ていると感じる。 狭山工業の印象はとても良い。倍率の件は、世の中の構造や最近の子供たちの考え方の影響もあるように思う。 PRに関しては、頑張っていることが伝わってくるので、A評価は妥当である。 	
<ul style="list-style-type: none"> 現在日本の企業は生き残りをかけ、各々様々な工夫を凝らしているところであり、手に職があると、どこでも活躍できるため、ものづくりの楽しさを学び、頑張ってもらいたい。 ものづくりは品質も大切であるので、これからはしっかり学んでほしい。 進学者もおり、卒業後の進路が多様であることや大学からの指定校数が多いことをPRしても良いのではないかと。 	